

日本農建
本民築

国立保健医療科学院蔵書



10012215



QLD
10
4

石原憲治著

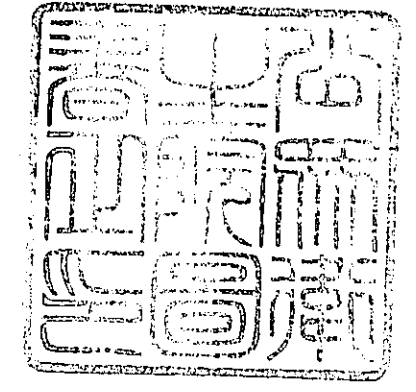
日本農民建設

第十輯

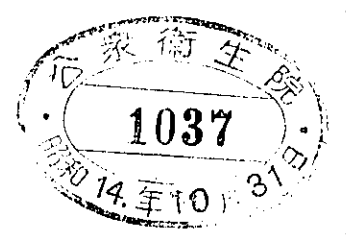


聚樂社刊

QLD
10
4



內容目次



圖版目次

- 第一 本屋全景 (愛知縣北設樂郡本郷町鈴木茂重氏)
- 第二 本屋全景同前面 (愛知縣北設樂郡本郷町某氏)
- 第三 本屋全景 (愛知縣北設樂郡本郷町原田芳一氏)
- 第四 聚落全景 (愛知縣北設樂郡本郷町)
- 第五 本屋全景 (愛知縣北設樂郡田口町金田久三郎氏)
- 第六 本屋全景 (愛知縣北設樂郡田口町夏目由吉氏)
- 第七 本屋全景 (愛知縣中島郡稻澤町吉田九郎衛門氏)
- 第八 本屋全景同玄關內部 (愛知縣知多郡富貴村田平衛門氏)
- 第九 本屋全景 (長野縣北安曇郡南小谷村丸山左平氏)
- 第一〇 本屋全景 (長野縣北安曇郡北城村丸山嘉悅氏)
- 第一一 ニ ヲ (同 上)
- 第一二 本屋全景 (長野縣北安曇郡平村遠藤代藏氏)
- 第一三 ケ ミ ヤ (同 上)
- 第一四 宅地全景、ケミヤ (長野縣南安曇郡梓村原重治氏)
- 第一五 ケミヤ側面 (同 上)
- 第一六 宅地全景、ケミヤ (長野縣南安曇郡梓村鰐川則寧氏)

- 第一七 聚落景觀 (長野縣南安曇郡安曇村)
- 第一八 本屋全景 (長野縣南佐久郡北牧村篠原豐見氏)
- 第一九 本屋全景、土藏 (長野縣南諏訪郡豐平村高橋善三郎氏)
- 第二〇 蒸籠 倉 (長野縣諏訪郡豐平村牛尼助氏)
- 共 同 室 (同 上)
- 第二一 本屋全景、オイエ内部 (長野縣諏訪郡豐平村小平順氏)
- 第二二 本屋全景、土藏 (長野縣上伊那郡美篁村櫻井傳次郎氏)
- 第二三 本屋全景、土藏 (長野縣上伊那郡美篁村中山龜平氏)
- 第二四 本屋全景 (長野縣下伊那郡喬木村原行雄氏)

解説目次

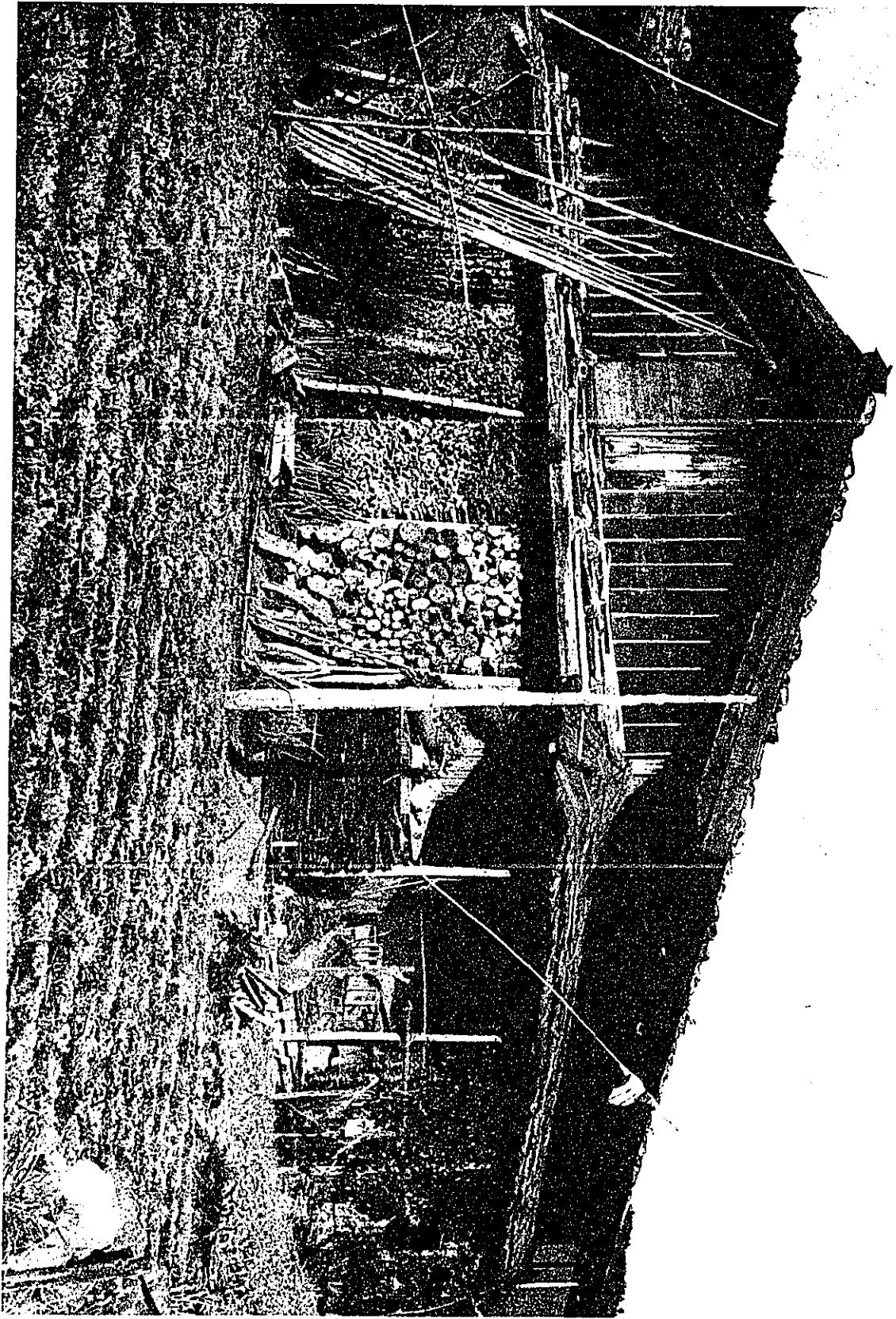
愛知縣下の概観……………一

圖版解説……………七

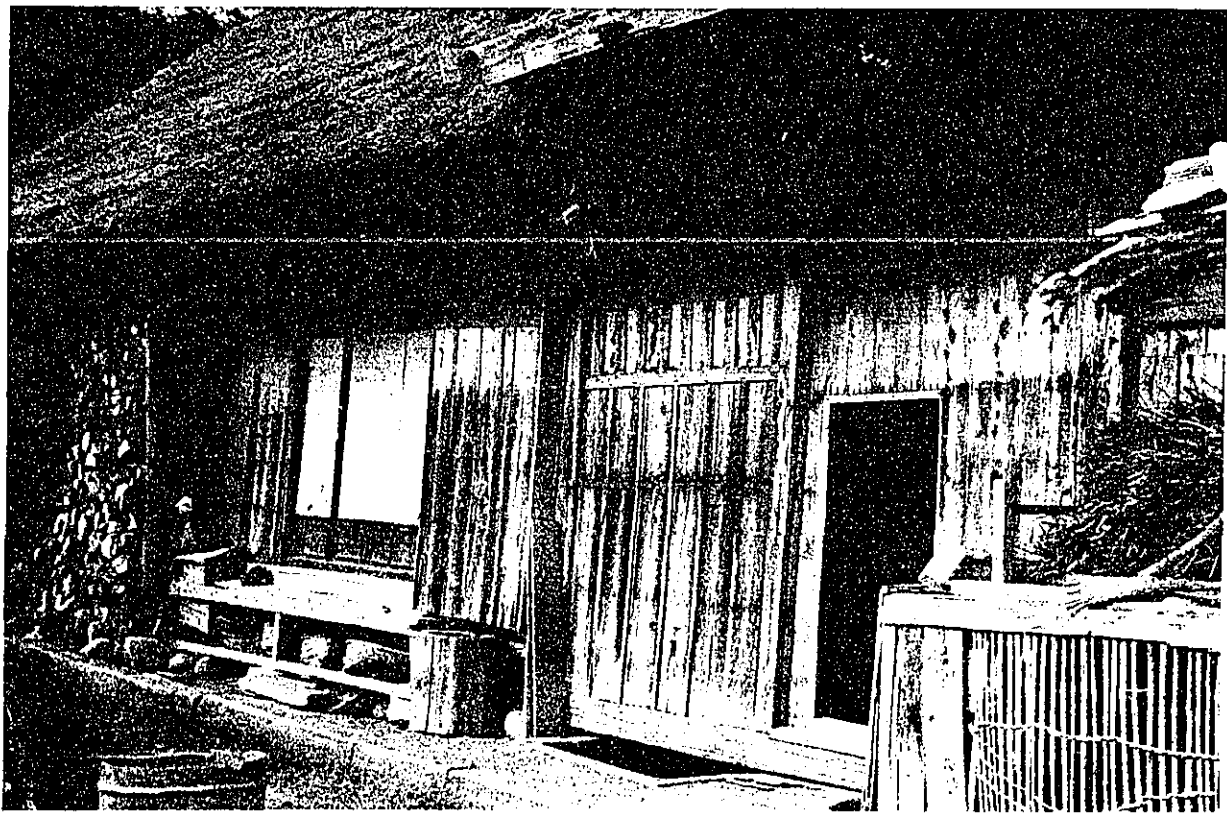
長野縣下の概観……………一三

圖版解説……………三一

愛知縣



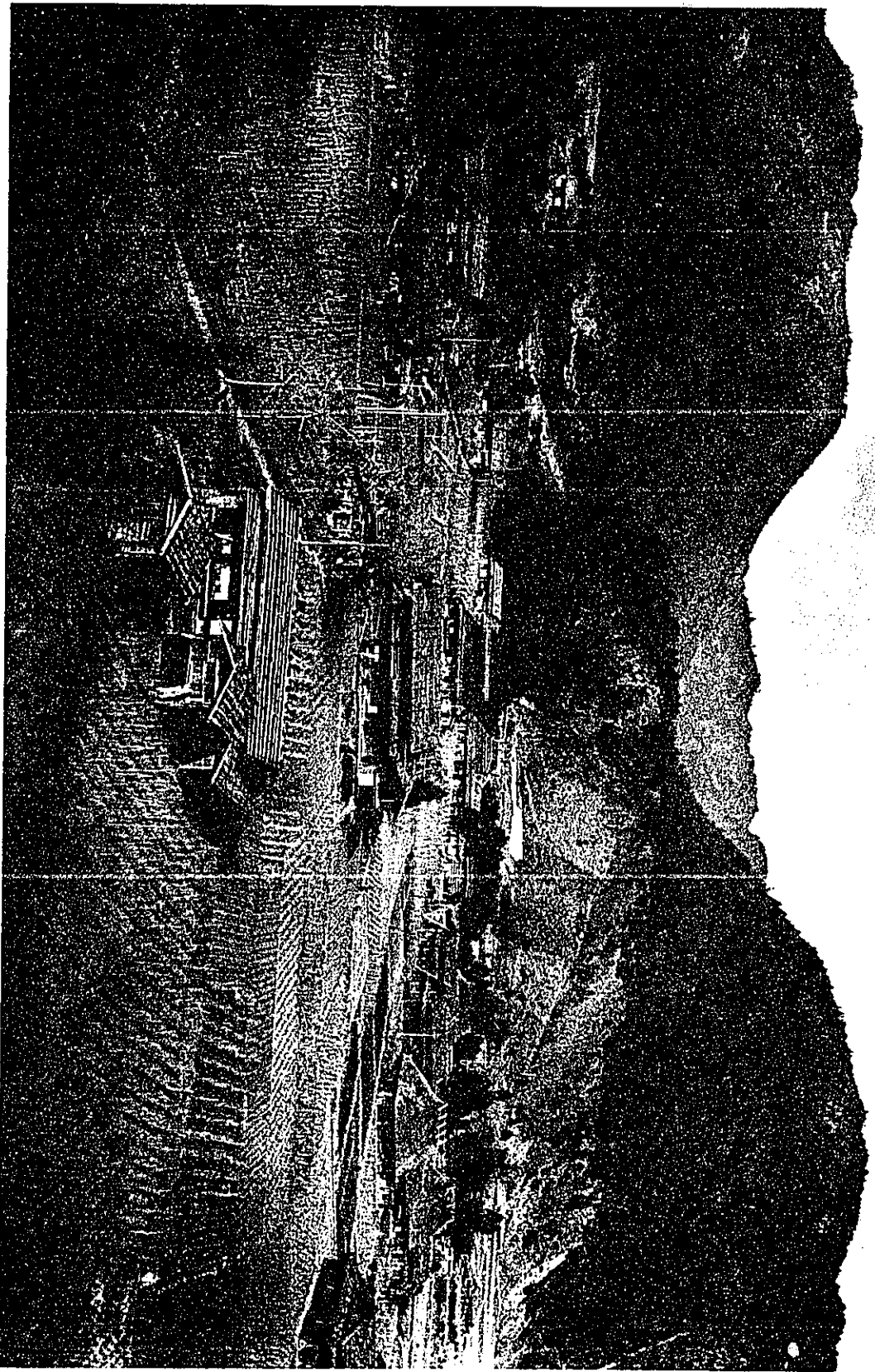
本郷町 鈴木茂重氏



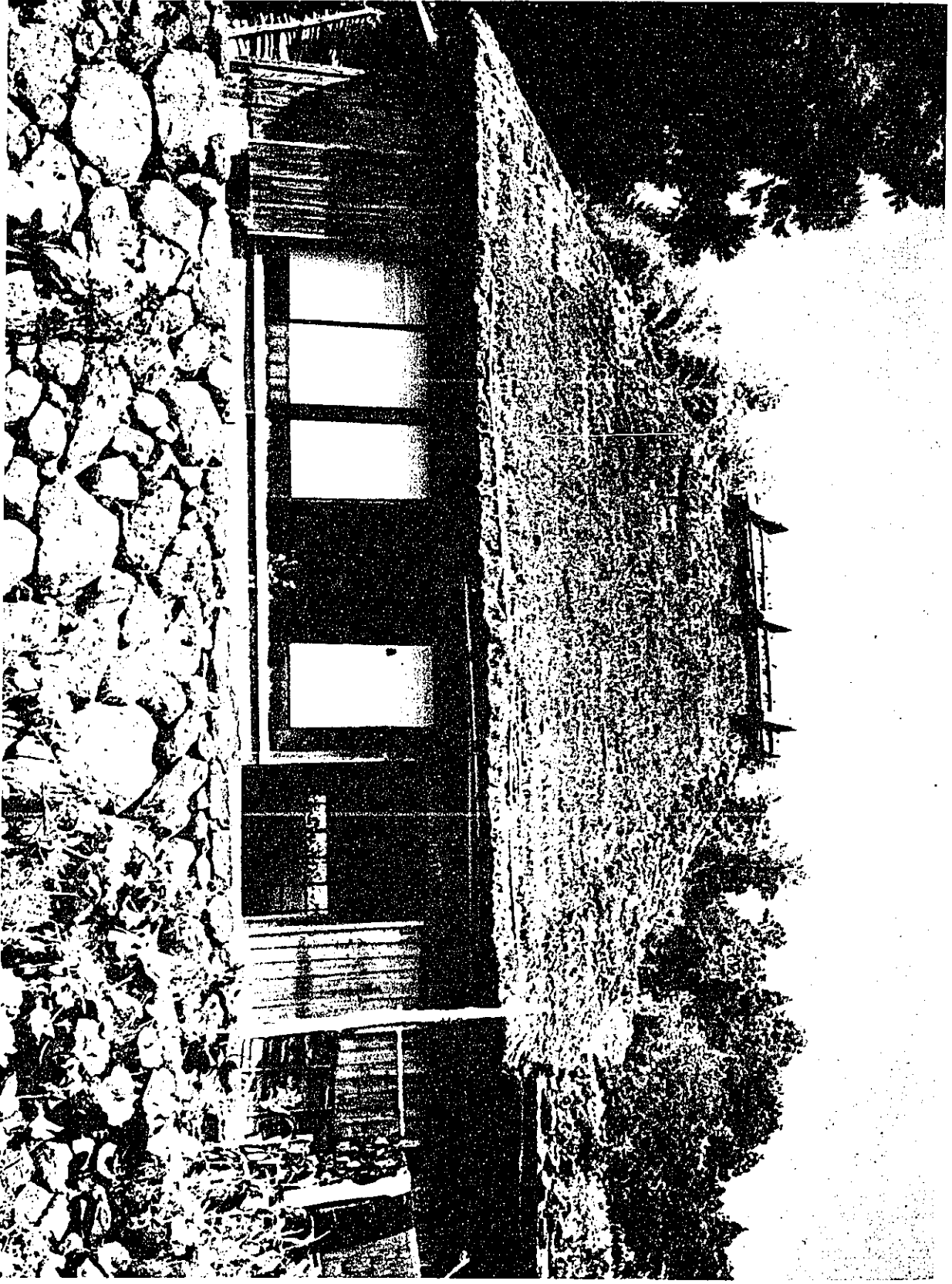
木
郷
町
某
氏
2



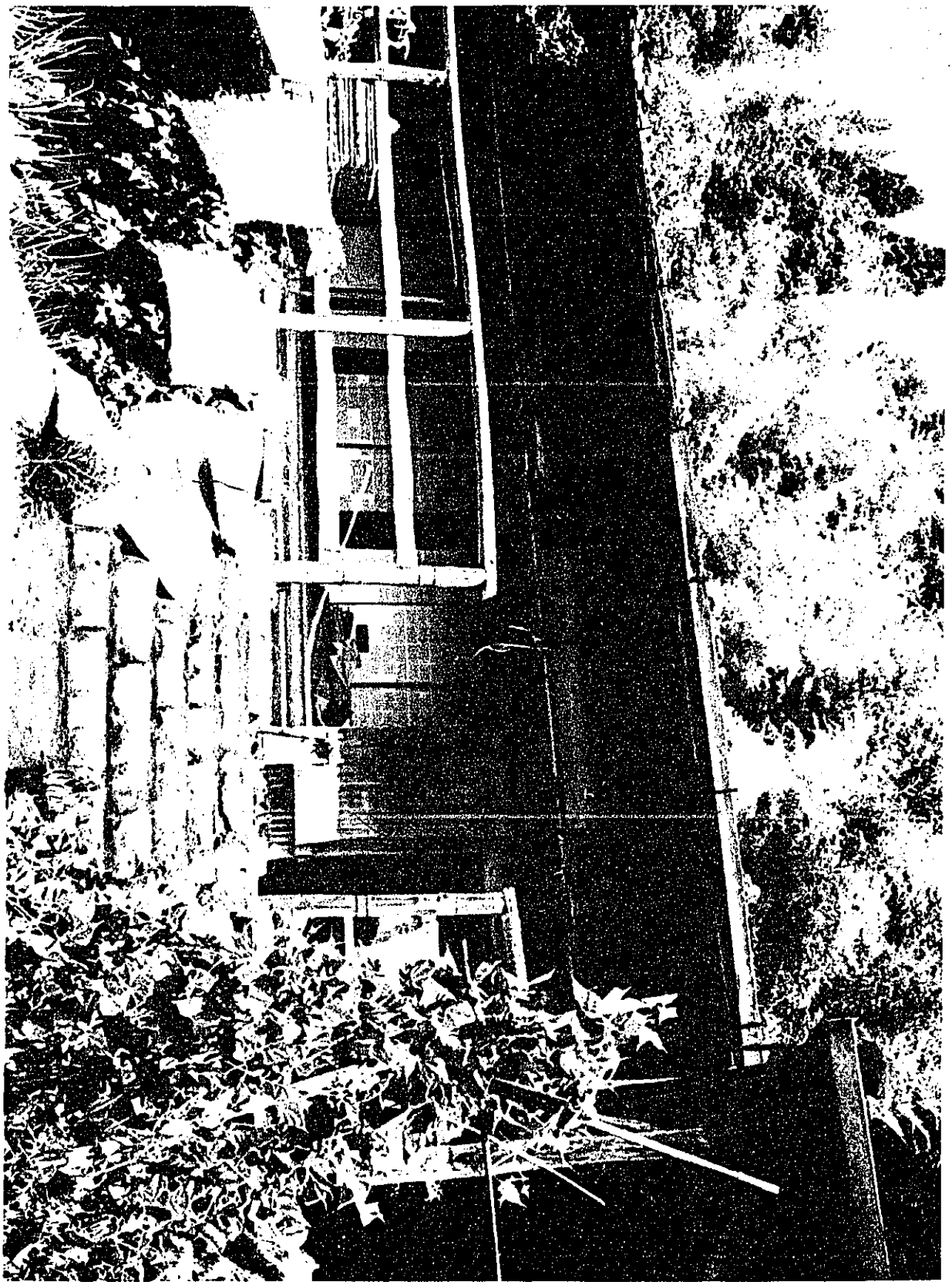
本郷町 原田芳一氏



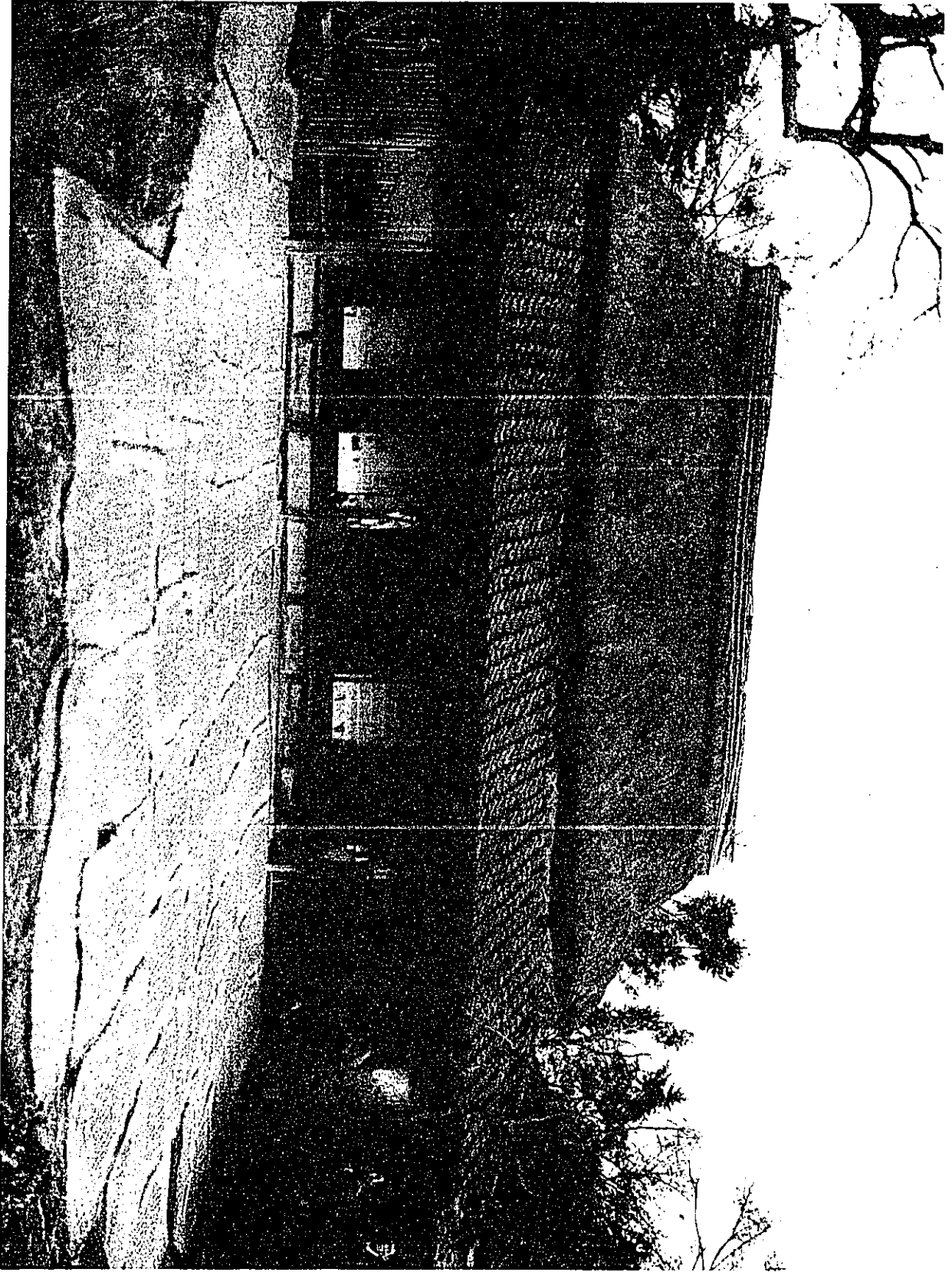
本郷町 乗落景観



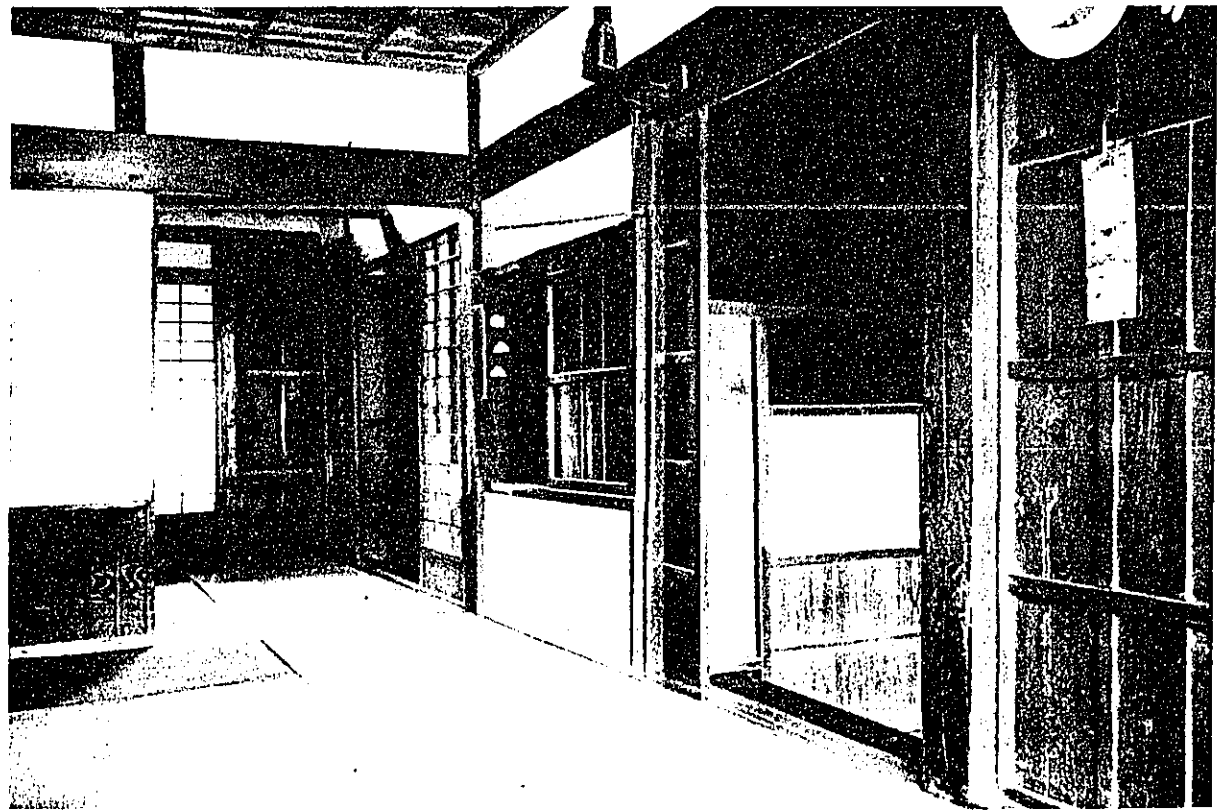
田口町 金田久三郎氏 5



田口町 夏目由吉氏 6



箱澤町 吉田九郎左衛門氏



富貴村 田平衛門氏

縣下の概観

本縣は西半の尾張國は木曾川流域に屬する濃美の大平野に屬し、東半の三河國は南の東海道沿線を除いて比較的低い山が疊重と重つて居る。尾張平野は尾張米の原産地である許りでなく、菜、養蠶其他多角的農業經營の盛んな場所である。是れに反して三河の内でも東北隅の山村は農業の經營も平地程進んで居らず、農耕養蠶の外に山林の經營からも生活の資源を求めて居る状態である。

是を農家建築に就て見ると尾張全部並に三河の西部に南部地方は何れも單純な整理間取であるが、三河の東北にある北及び南設樂郡地方の山間部落は信濃の方から引續いて廣間型の間取が分布して居る。北設樂郡地方は昔の古い民俗が保存されて居り、花祭りの行事なども有名である。最近鐵道が通ずる様になつたが交通が昔から不便な山奥であつたので自然家の作りも古い形式が保存されて居るのである。

尾張其他の地方の間取は前述の如く極めて單純であつて整理四間取(12×12)の間口二室、奥行二室のものが絶對多數を占め全體の半数は是れである。是れに次いで多いものが六間取(8×8)で、四間取の約四割位を占めて居る。其他奇數の間取で五間(2×2+1, 1+2×2)及び七間(2×3+1, 1+2×3)等があり、更に大きくなると八間取(2×4)並に奥行三室のもの(3×2, 3×3, 3×4)等が少數ではあるが見られる。

間取は殆んど左住ひで東にニツがあり、西の上手に座敷があり是れに次いで臺所がある。臺所はニツから上つた所で居間といふものもある。座敷の裏が部屋になり臺所の裏は勝手になつて居る。若し間口が三室になると中間が中央に入り、奥行が三室になる時も同様である。母屋の西側は必ず土壁になつて居り、南北は一般に開放されて居る。座敷は床間と棚を取つたものが多いが、佛壇を床間に飾つたり、又は押人の中に佛壇を入れたりして居る。是れは此の

地方が如何に真宗門徒宗が多いかを示して居るものである。立派な家になると座敷の西に更に佛間を二室設けるものがある。奇数の間取で $(1+2 \times 2)$ 及び $(1+2 \times 3)$ 等と現したのは何れも四間取及び六間取の座敷の上手に佛間がついたものである。床間に佛壇を飾つてある家などではニワから座敷の正面に金びかの佛壇が見られる。

ニワの廣さは間口が三間から四間五間のものが最も多いが、更に六間のものも少数ある。ニワは一般に前後に仕切があるものが多いが、稀に左右に仕切があつて作業土間を區別して居るものもある。ニワに附屬して居るものは物置、部屋(女中部屋、下男部屋、其他の用途の室及板間等をも含めて)等を取るものが最も多く、又土間入口に風呂を取つことは殆んど一般の習慣になつて居る。其他味噌部屋、便所、薪入、穀物入れ、農具入れ等が取つてある。従つて是れらの附屬部屋を取る爲めに土間のニワの部分は比較的狭くなつて居る。

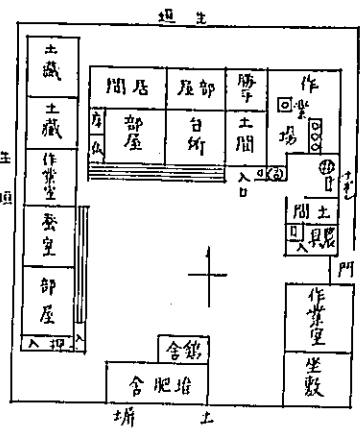
此の地方では流しは家の外にあつて、母屋の南のカドに井戸があり、是れに流しが設けてあるわけである。即ちニワの表入口に對した位置に設けるものが一番多く、是れに次いで、入口の前隅の處に、或は裏入口の後方に設ける風習がある。其他少数ではあるが流しが母屋の中のニワに設けてあるものがある。

竈は必ず土間に据えてあるが、竈部屋を別に仕切つて設けたものが可なり見られる。是れは知多半島ではニワの入口の下手前の方に突出して附屬して居り、又井戸と流しがニワの前方にあるものが多い。其他ニワの奥を仕切つてそこに竈を据えたもの、或はニワに前後の仕切なく唯奥の方に据えられたものがある。

母屋の屋根は大多数は瓦葺であるが茅葺及び藁葺のものも少数あり、壁體は多く土壁であるが、上等のものは是れに漆喰塗とし其他板壁及び兩者を混用したものがある。

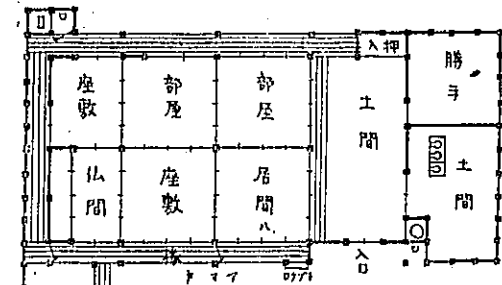
敷地を見ると長屋門其他の附屬建物の外壁を以つて宅地の周圍を圍ふものが多く見られるが是れは知多郡のものに最も著しく、其他一般に此の風が見られるが是れは近畿地方に共通した屋敷構えである。従つて此の様に母屋の前面にカドを取りその三方を多数の附屬建物で圍ふ様に配置する。一般に母屋の上手の方即ち西側には土藏、離れ座敷、

宅地内附屬屋配置圖

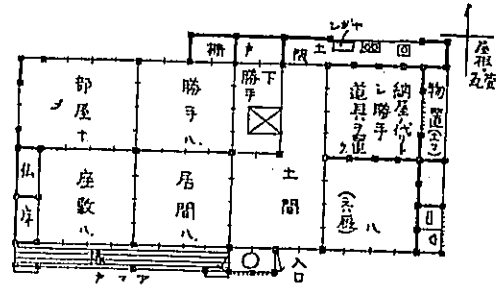


物置、農倉、蠶室等を建てるが、知多半島の方では是れらを長屋として一棟の中に座敷、倉、作業場、物置、蠶室等を取るものがある。母屋に對してカドの南には長屋門、鶏舎其他物置等を建てるが、座敷、居間、作業室、蠶室、灰部屋、薬部屋、堆肥舎、便所、厩等を一つの長屋の中に取つて同時に長屋門をも取り込んだものがある。母屋の下手横即ちカドの東側の方には主として農倉、灰部屋、堆肥小屋、炊事場等の長屋、或は堆肥舎、農倉、納屋等を別々の棟に建てるものもある。

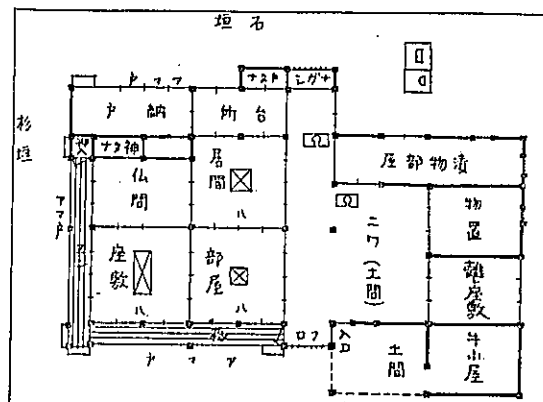
以上は主として尾張地方を主とした整型間取の農家の地方の特色であるが、三河の南北設楽郡地方は是れに對して廣間型の間取に屬し、凡ての風習が平地の地方と異つて居る。又家は多く葛屋であるが、石置板屋も相當多く又床張りの部分は四注の葛屋で、是に土間の部分の板屋を接合したものが相當多く見られる。此の葛屋と板屋とを接合した形式は信濃、甲斐等にも見られない此の地方獨特のものである。此の廣間型の間取は中央に廣い茶間があり、その上手に前後に奥デイとデイを取り、茶間の裏に寢間を取るもので是れは信州並に日本海沿岸の諸國のものと大差はないのである。然しデイを奥、中、前と三室に分けたり、茶間の前に細長い室を設けたりして一見整型廣間型の様な形式になつて居るものも見られるが何れも茶間を中心とした廣間型間取が變化したものである。



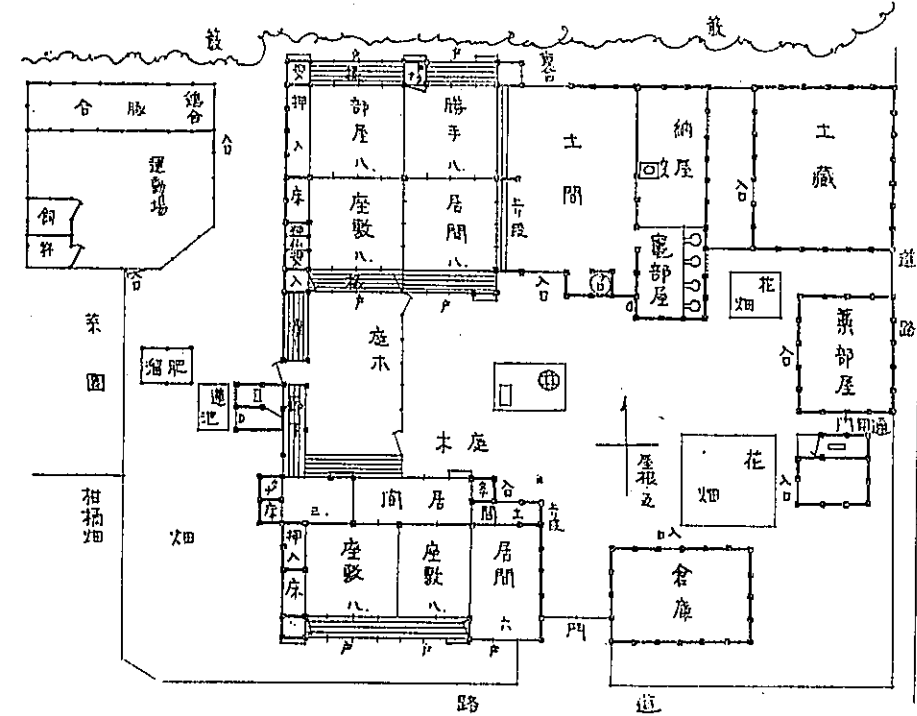
2×3 型整 (四)
(町城安郡海碧)



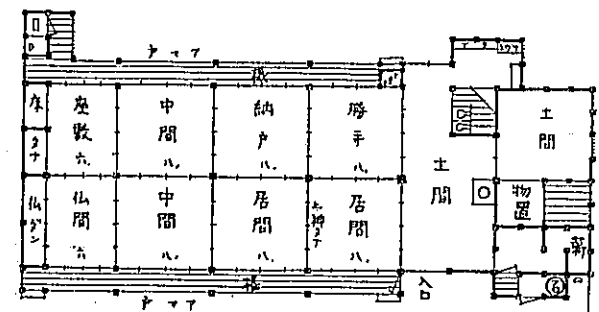
2×2+1 型整 (三)
(村原小郡茂加西)



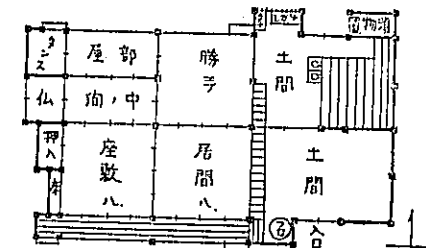
3×2 型整 (六)
(村手作郡樂設南)



2×2 型整 (一)
(村比久阿郡多知)



2×4 型整 (五)
(村郷上郡海碧)



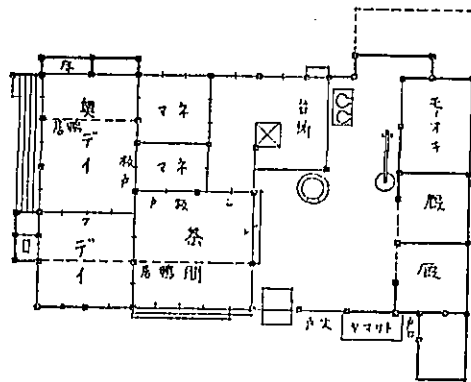
2×2 型整 (二)
(村津豊郡名八)

圖版解説

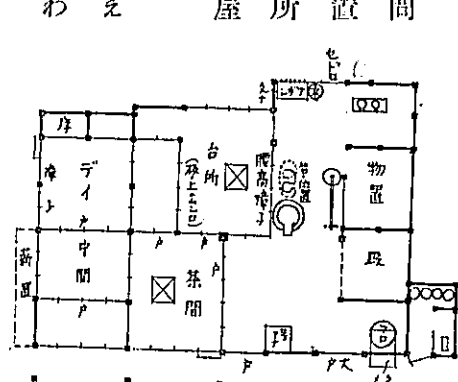
圖版第一 北設樂郡本郷町鈴木茂重氏の住家で板葺の廣間型の間取が變化して茶間の裏に取つてある寢間の一方が廣い臺所になつて居る。又ニワの下手にフロ、厩、物置炊事場等が取つてあるが裏の炊事場は後で改造して下屋をつけたもので、前には臺所の下手の大釜の裏にあつたものである。此の附近の家は附屬建物を建てないので母屋の中に取り込んで諸用を足す様にして居る。二階の屋根裏は物置に使用して居る。此の部落に板葺屋根の家は澤山あるが多くは昔の葛屋を改造して屋根丈け取り代えたもので、始めから板屋として作つたものでないから内部の間取は葛屋と大差ないわけである。

圖版第二 同じ部落の某氏の家であるが間取は廣間型で大した變りはないが茶間や奥ダイの室内に鴨居が平面圖點線に示す様に存して居たり、又臺所附近及び廣間の仕切の貝合を見ると相當に間取が改造されたものであらふと思ふ。其他前例と大差ない。厩は八拂といひ八尺八寸に造る。又厩を暗くするのは馬糞がつかぬ爲めであるさうである。屋根は此の附近の特徴をよく現して、上手は大戸の部分迄は葛屋になり、厩の部分は板屋を接屬した形式になつて居る。

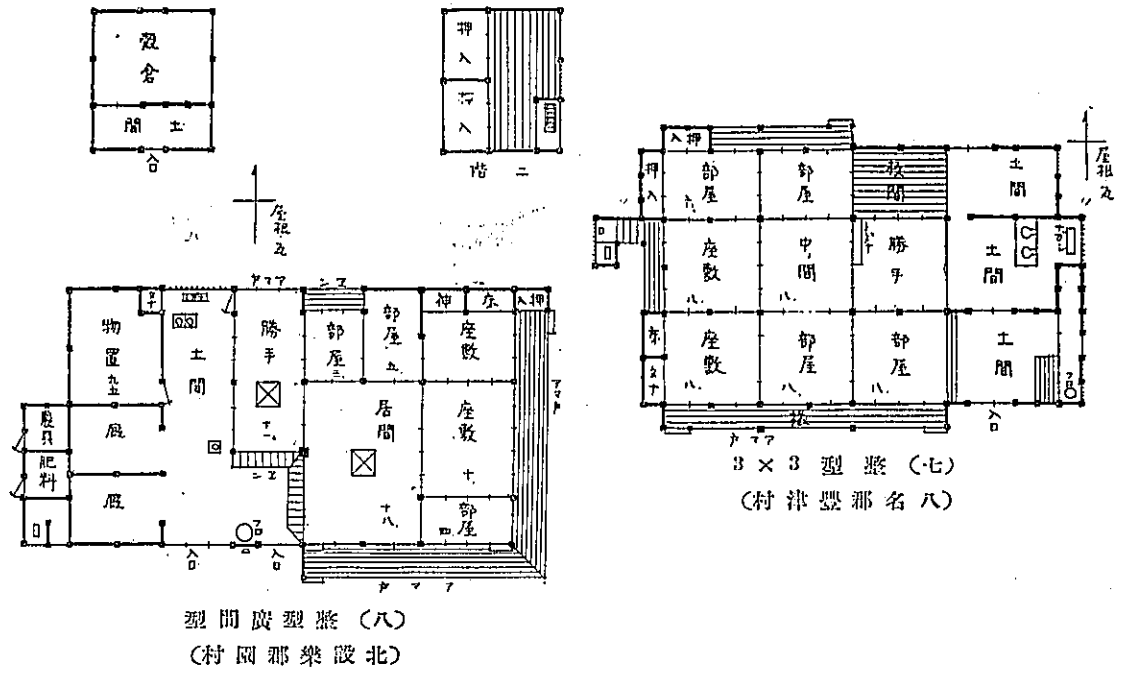
圖版上圖は母屋の全景を示し、下圖はその一部の前面を示す。板屋根の軒庇の端



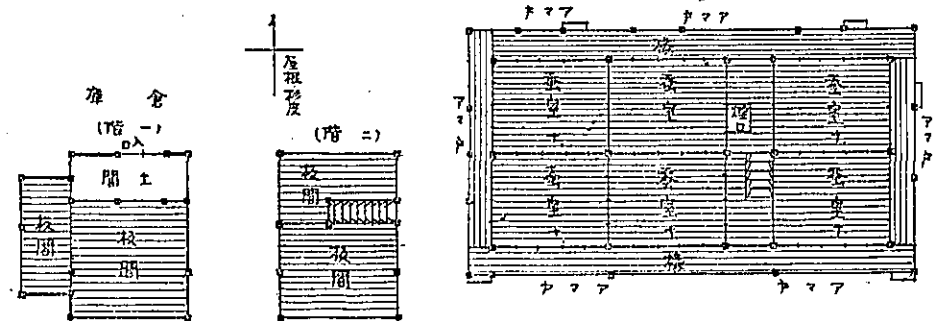
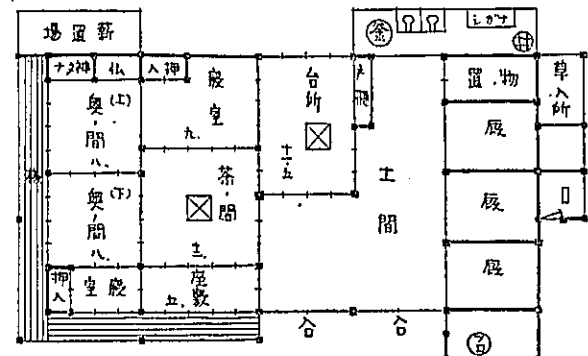
取間氏菜



取間氏重茂木鈴



型間廣型整(八)
(村岡郡樂設北)

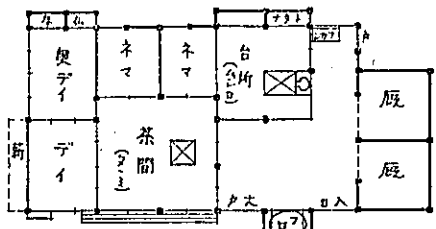


型間廣遠喰(九)
(村岡郡樂設北)

の板を板モチと曰ひ、樺の端を柄に入れて止めてある。板壁は縦羽目になつて居るが、前例の鈴木茂重氏の家は下見板張になつてあつた。

圖版第三 前同様本郷町にある原田芳一氏の住家である。間取は前二者よりも規則正しい廣間型を示して居る。間取構造共に此の家が代表的なものであらう。母屋の屋根は葛屋根で、厩の部分丈け板屋にして附屬して居る。古い家は此の様に葛屋が主であるが厩や附屬部屋を増築したり、又は臺所や炊事場の方を改造する度に板屋が大きくなつて、葛屋と板屋とを半々に接合した様な家が出来たものであらう。

此の家も昔は厩の方も葛屋で、本屋との間に大きな樋があつたさうである。屋根の勾配は八分起しといふで一尺について一尺八分の丈を取る。是れは四注屋根の前も横も同様で、前方を大平といひ、横を小平といふ。棟の兩端には小平に小さな煙出しが附いて居るが、他の家には無いものもある。

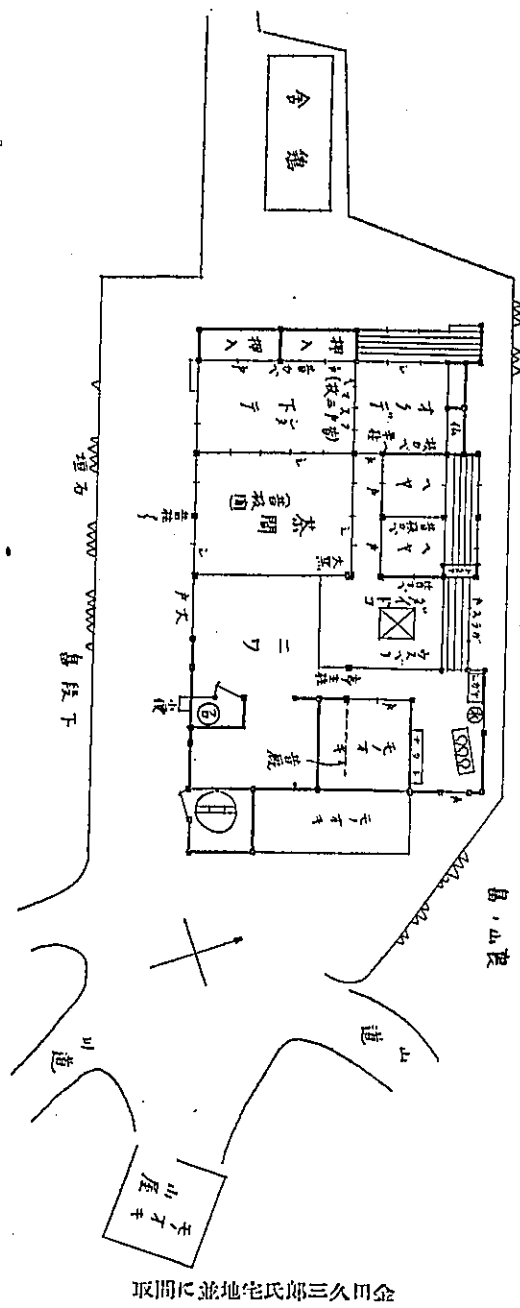


取間氏一芳田原

圖版第四 北設樂郡本郷町の部落の全景であるが、此の町は北は遠州街道によつて信州下伊那郡に至り、南は興良木峠を経て豊橋から遠江の天龍川沿ひの川合に通ずる街道に出ることが出来る。此の圖版は部落の南にある峠の上から遠望したもので山中の盆地に發達した散村の風景である。一望の下に此の部落の家屋の形態が手に取る様に見られる。葛屋と板屋とが相半して散在して居る。

圖版第五 田口町は北設樂郡の西の方に當り豊橋から鳳來寺を経て信州下伊那に通ずる豊橋街道に沿つて居る。此

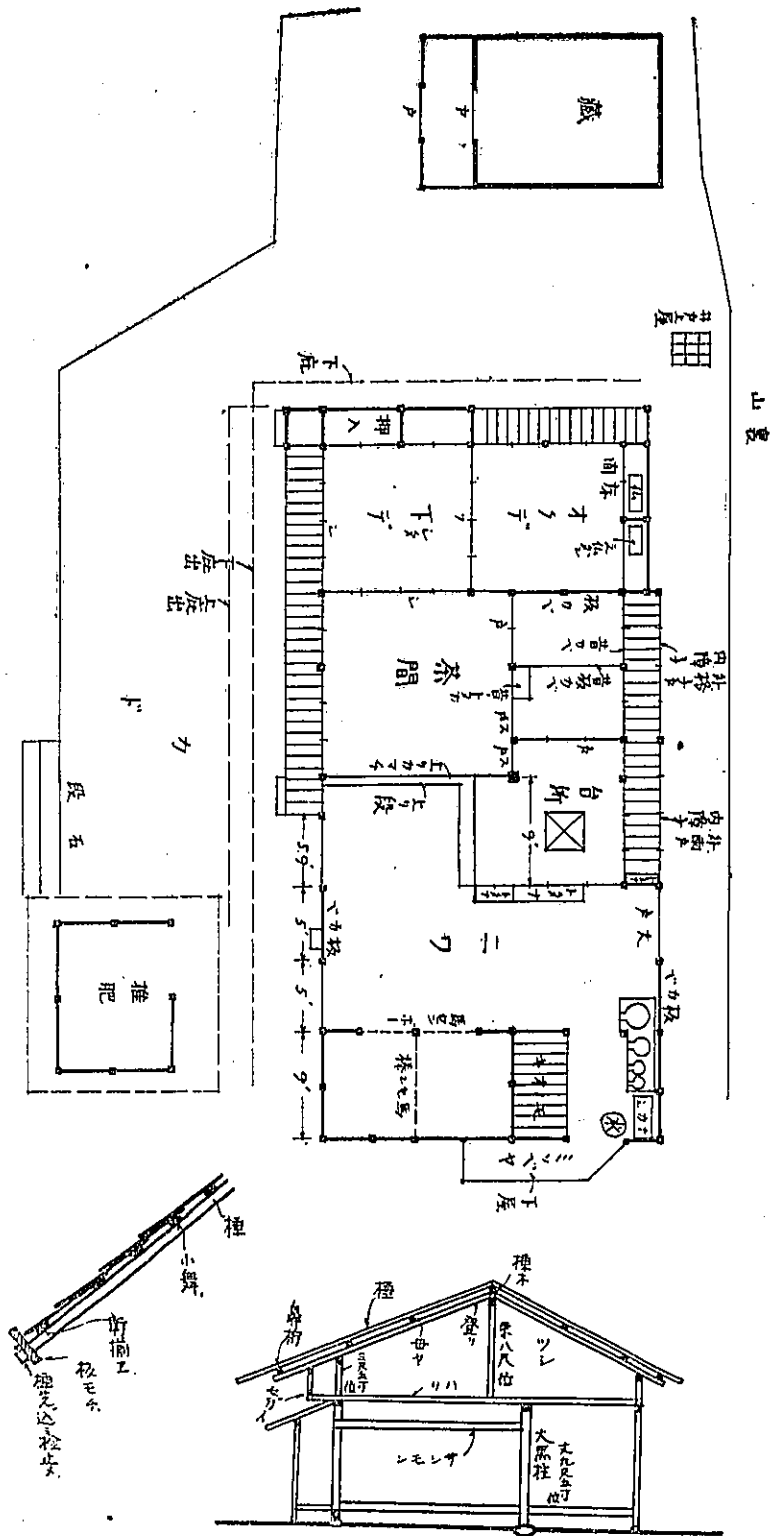
の附近の山村の中心地である。此の圖版の金田久三郎氏の家は田口町の本村から少し離れた山裏の字和市の部落にあるもので、間取は廣間型に屬し、茶間の奥の仕切の障子は以前は無く、直ちに部屋の間が四枚見えて居つたものであるが養蠶の爲めに仕切をつけ部屋との間に三尺の中廊下を設けたものである。又部屋は以前は二疊のものが二間あつたが今日は三疊一間と一疊は臺所の方に取り込んである。又裏と横の縁側及び押入は後に増築したものである。ニワの下手の方に板屋を接合したことなど本郷町のものと同様である。



取間並地宅氏郎三久田金

圖版第六 同村字荒尾の部落にある夏目由吉氏の住家である。此の家は板屋になつて居るが間取は前例の金田氏並に原田芳一氏のものと同様である。前面の椽、オクデの椽及び脊面の椽は何れも下屋にして建増したものである。従つて部屋は裏は昔は外壁で暗い室であつたものを障子を建てる様になつたので明るくなった。

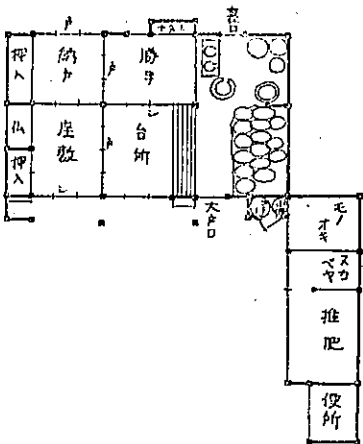
小屋裏のツシは物置に利用し、小屋は中央に束を立て棟木を支え、登りを前後に懸け渡しその端を桁の外に突出させて鼻桁を受けて居る。又梁の鼻を出してセガイを作つてある。圖版は母屋の前景である。



圖面斷横及び取間に並地宅氏吉由目夏

圖版第七 濃尾平野の中央中島郡稻澤町吉田九郎左衛門氏の住家で極めて普通の農家であるが、此の様な小農家の一般的の實例である。間取は整型四間取で座敷が上手前にも佛壇が正面に祭つてある。ニワの下手に米俵が積んであり、カドの下手に物置堆肥舍等の棟が取つてある。圖版は母屋の全景であるが、葛屋の前方に瓦庇を付け足してあ

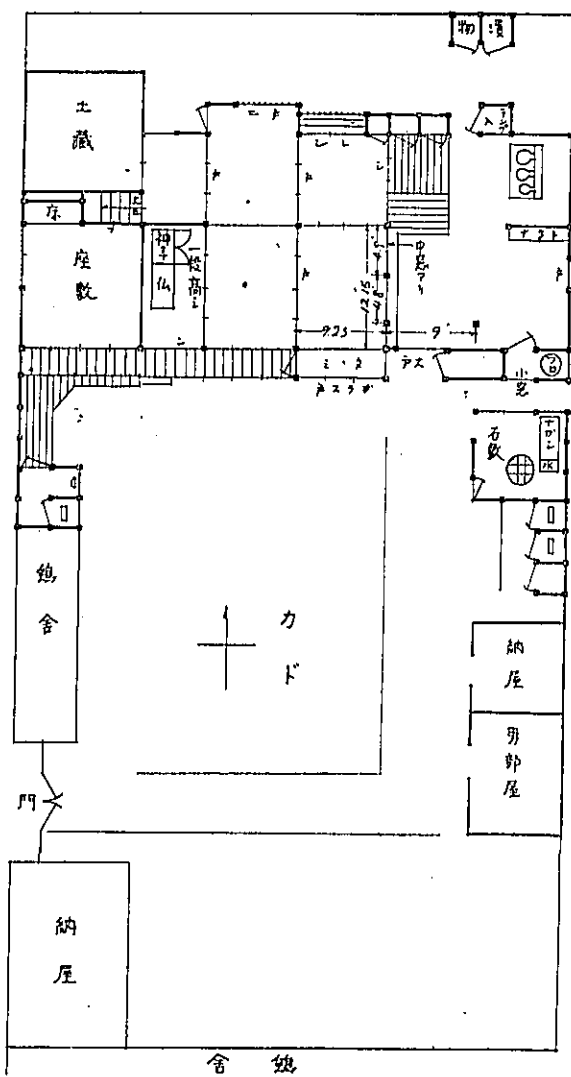
る。前のカドは穀物の乾物に使用される。



取間氏門衛左郎九田吉

もよく現れてあり、ニワと四間取の部分が葛屋になつてその上手の佛間は瓦屋となり更に瓦葺二階が是れに接して居る。母屋の前方の瓦庇は後に三尺の椽側を建て増した時につけたものである。

此の家は昔は船乗りであつたそうで、家の構へが純粹の農家よりもやゝ住家に近い工夫がされて居る。屋敷は西の正門が長門屋になつて鶏舎と納屋があり、東側には井戸流し、便所、納屋、男部屋等が連続して瓦葺の棟の下に取つてある。



取間に並地宅氏門衛平田

長野縣